

## 令和4年度 第4回 社会教育委員会議 会議摘録

開催日時：令和5年2月14日（火）午後1時00分～2時15分

開催場所：精華町立図書館 1階 集会室

出席委員：

高鍋房美委員長、村上栄副委員長、白畑丈子委員、北尾直美委員、堀口紀代美委員、米澤正展委員、尾崎万佐子委員、吉田一雄委員、山田昇委員、丸山琴羽委員

出席事務局職員：

教育長 川村智、生涯学習課長 田原孝一、生涯学習課主任主査 黒田成代、生涯学習指導員 畑中悟

傍聴者：無し

内 容：

- 1 開会
- 2 あいさつ

○高鍋委員長あいさつ

そろそろマスクも取れるかとの話が出てきてうれしく思います。

1月研修会に参加して、学校教育の中で少し出遅れた子が家族からも否定的なことを言われたら、夢は断たれてしまう。その際、近所のおじちゃんやおばちゃんから温かい言葉掛けがあれば、前向きになれる。そういうことが社会教育委員の仕事だと感じています。今日もよろしく願います。

○川村教育長あいさつ

今年度最後となります社会教育委員の会議開催に当たり、ご挨拶申し上げます。委員の皆様には、ご多忙の中ご出席を賜りまして感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が丸3年になりました。昨年12月下旬が国内で第8波のピーク、京都は1月上旬だったようで、1日3千人ほどの感染から、今は5～6百人と随分減ってきました。いよいよ5月には第5類に移行との方針が固まってきましたが、精華町では今コロナとインフルエンザ両方が流行していて、インフルエンザによる学級閉鎖が出ている状況です。

社会教育をめぐっては、感染症の状況を見極めながら様々なところと連携して今後の事業を進めていきたいと思っています。今まで様々な活動が自粛となり、社会教育の活動においても、人々が集えない状態があり、その基盤になる人づくり、つ

ながりづくりや地域づくりなどの活動が制限されてきました。いよいよ5類移行か、卒業式もマスクを外すかなどのお話も出てきて、ある程度の期待がみられます。しかし、まだ見通しは定かではありません。本日は令和5年度の社会教育事業関連予算と指導の重点との2点についてご審議ご検討をいただきます。限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただき、よりよいものにしていただきますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 議事

#### (1) 令和5年度社会教育事業関連予算について

##### 【黒田生涯学習課主任主査から説明】

昨年度予算と比較して大きく減少している事業は、まず、青少年健全育成事業で、家庭教育学級のびのびコースの規模縮小により約20万円減となっています。また、二十歳の集いは、対象者のニーズの減少により写真撮影を無くすため約30万円減となっています。文化財保護事業の約150万円の増については精華町文化財保存活用地域計画作成のための諸経費の計上、指定文化財保存修理費の増、デジタルミュージアム管理委託費が当課の予算計上に変更になったことによるものです。

社会教育関係団体への活動助成についてはほぼ昨年と同じですが、精華町文化協会については、文化フェスティバルの会場をむくのきセンターからけいはんなプラザにするための費用増加により6万円増、精華町スポーツ協会への活動助成は、平常時の活動が継続できるよう、事業実績に物価や人件費上昇を加味し22万円増となっています。

##### ○丸山委員

町民スポーツ賞は精華町から文化やスポーツを頑張ってる学生などへの奨励金支給も含まれていますか。対象がスポーツで全国大会や世界大会に出た児童生徒とありますが、文化事業で音楽や伝統芸能などを頑張っている子供への支給をご検討いただければと思います。

##### ○黒田主任主査

町民スポーツ賞は奨励金の対象ではありません。全国大会に出場される選手を励ます奨励金支給は別の事業です。文化について同様の奨励金交付事業は無く、対象は団体が行う広域的な文化事業で市町村の後援を得たものになっており個人が対象ではありません。貴重なご意見ありがとうございます。

##### ○田原生涯学習課長

確かに、今対象になってるのは、学校での活動に焦点が当たりがちですが、学校

以外で伝統文化などに関わっている子供たちも当然いることでしょう。基本的なルールの見直しが必要ですが、十分に教育委員会でも検討していきたいと思います。

○吉田委員

青少年健全育成協議会の活動について、物価上昇の中、来年度コロナが5類に移行し活動が活発になった場合、予算が不足する懸念はないですか。

○黒田主任主査

物価が上昇しているので、数量や内容を変更できるもので調整し費用を抑えていきます。

○尾崎万佐子委員

精華町の社会教育の良いところは家庭教育の充実です。家庭教育学級のびのびコースについては、受講者が減少していますが貴重な事業であると考えます。

○黒田主任主査

のびのびコースは、リピーターが多く、今年度の前期と後期もほぼ同じメンバーだったこともあり、来年度は2期から1期にして、9月から開始を考えています。

○田原生涯学習課長

生涯学習課の家庭教育学級はもう20年以上続く事業ですが、本町の子育て支援センターで実施している事業もあり、事業の中身をいろいろ工夫したり、見直したりしながら継続を考えています。

○村上副委員長

保健師さんや子育て経験者のメンバーが中心になる家庭教育支援チームが全国的にあります。本町事業には設置はされていますか。

○田原生涯学習課長

こちらの所管では、そういう組織は立ち上げていません。

○山田委員

スポーツ振興の関係で、私も地域で役員をしていますが、町民体育祭がなくなり、地域の体育振興が弱まりました。スポーツフェスティバルはありますが、広域になるほど地域でまとめるのが難しくなっています。よいやり方をまたご指導いただきたいです。

2つ目、以前に参加していました、まなび体験教室の状況を教えてください。

○田原生涯学習課長

町民運動会は、自治会の参加が少なくなったために見直しし、スポーツフェスティバルと名称を変え、大人も子供も一緒に楽しめる種目を選出して、むくのきセン

ターで一回開催しました。その後コロナ禍となり、続く2年間は中止となりました。

新年度どのようにやっていくのかは、教育委員会とスポーツ協会とで協議しながら進めていくことになると思います。各自治会で選手を集めていただき自治会対抗で大きな競技運動会をする従来型に戻ることは難しいと考えています。これからどういう形でスポーツ振興に結びつけていくのかを考えていくに当たり、社会教育委員さんのご意見もいただきたいと考えてます。

それから、2つ目の精華まなび体験教室は、学校の放課後や休日の子供たちの居場所づくりのため府補助金も財源とし、各地で展開されている事業で、コロナ禍になってから全く停止しています。精華町でもコロナ禍になり保護者でさえ学校内に立ち入れない状況で、ボランティアさんを数多く集めていた、まなび体験教室も当面外部の方が学校内に入るのは自粛してほしいとの流れもあり事業自体が止まりました。実は昨日もまなび体験教室のコーディネーター会議を持ちました。事業再開には学校の協力も要りますし、ボランティアさんがどれほど集まるかなどの課題は、町外各地でもあるようです。内容や規模なども含め様々な課題を解決しながら、各小学校で各学期1回ずつでも復活させたいとの結論で会議を終えました。

○高鍋委員長

たくさんのご意見をいただきましたので、今後の事業に反映できるように事務局で調整をお願いしたいと思います。

(2)令和5年度社会教育指導の重点について

【田原生涯学習課長から説明】

令和5年度の社会教育指導の重点で、「人がつながる地域づくりと住民の自発性・自主性を」という趣旨から「人がつながる地域づくり」との言葉を追加。「新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策をとりながら」は削除。「関西文化学術研究都市」と正式に表記。家庭・地域社会の教育力の向上という箇所、学校部活動の地域連携という項目を追加。この追加項目については、令和4年12月の国のガイドラインから精華町でも学校部活動と地域、団体との連携、それから地域移行に取り組み、段階的な体制整備を進めるということで、この一文を追加。家庭の教育力の向上の箇所では、4年度版での「家庭からの相談に応じる体制」を「サポート体制」という文言に追加修正。命を守り、人権を大切に作る共生社会づくりという項目の(1)番、人権教育の推進の箇所で「一人ひとり」を「一人一人」と改訂。京都府の教育振興プランや人権教育啓発推進計画に基づき、同和問題をはじめとする人権問題を「同和問題(部落差別)」との表記に変更。社会総がかりの取組の推

進の箇所では他と統一するため「関係機関・団体」という表記に変更。男女共同参画の推進の箇所で、令和4年度版で「正しい理解と認識を啓発する」との記述を「正しい理解と認識を深める」と改訂。

○丸山委員

「人がつながる地域づくり」について「世代を越えて」という少子化に対応する文言を精華町独自に追加できたらいいなと感じます。それに関連して「成人の文化講座の充実を図り」の一文中の「その豊かな知識と経験を生かすことのできる」という表現について、生かすだけではなく、次世代につながるニュアンスがあればいいなと感じました。

○米澤委員

「人がつながる地域づくり」については、3年前に府教育委員会が新しい地域づくりということで掲げたものの、その途端にコロナ禍になり、つながって集まっていない状況にありませんでした。精華町内でこのように戻してもらえることはありがたいと思います。丸山委員がおっしゃったように「人がつながる」の意味の中には世代間交流を強く意識して、地域で人を育てていこうという意味があったと思います。

○堀口委員

地域とつながるといえるのは、もともと精華町はできていると感じながら生活していますので、正に丸山委員や米澤委員が言われたとおりだと感じております。

○北尾委員

特に異義はございません。

○白畑委員

皆さんおっしゃったとおりだと思います。

○村上副委員長

3の(2)の部活動の地域連携。これは今、国から教員の働き方改革として、教員の負担軽減が言われていますが、すごくハードルが高い事業だと思っています。中学校で部活動を指導してきた経験者として、大変な取組であり慎重に進める必要があると思います。これはいい取組ですので、社会教育委員としても何か意見や助言できたら積極的にしたいと思っています。

○川村教育長

私は、学校の部活動の地域連携について実は学校教育か社会教育で悩んだところです。最終的には社会教育のジャンルになるでしょうが、まだ現時点では、3月1

0日に町のスポーツ協会と文化協会と中学校長などが集まり準備会を開催しました。どんなことができるのか事前協議会のようなものを立ち上げなければと思っていました。私の今の発想では、学校が部活で困ってること（指導員不足や少子化）を解決するような取組が教員の働き方改革にも、また子供にとってもプラスになるというような発想です。

丸山委員がおっしゃった「世代をこえて」は、「超」ですか「越」ですか。

○丸山委員

世代間の交流ということで「越」です。「世代を越えて人がつながる地域づくり」の文章を考えました。

○田原生涯学習課長

ご意見をいただいた「世代を越えて人がつながる」を採用させていただき、最後のページ（3）文化講座の充実のところで、「豊かな知識と経験を生かし、次世代につながる文化活動や社会参画の取組を推進する」という文でよろしいですか。

（一同「賛成」）ありがとうございます。

○高鍋委員長

学校部活動の地域連携に関してプロジェクトなどを立てられると思いますが、学校部活動の目的をはっきりと掲げてほしいと思います。部活動などを子供たちがどのようにし、これからどういう夢を果たしたいのか、自分たちの将来に向けて放課後の時間をどう過ごしたいのか、大人にどういったサポートをしてほしいのかなどをきっちり取り上げて話し合いを始めてほしいと思います。

また、この件に関して、まずは学校教育と生涯学習とがしっかりと連携して結びつき、子育て支援の方も入ってのプロジェクトをお願いしたいと思います。町では新年度2学期から中学校給食も始まり、先生方の負担も大きいと思いますので、サポートできる体制を取れるように役割分担なども決まっていればありがたいと思います。

これからの子どもたちが振り返ったときに部活動がよい思い出になるような時間づくりができればいいと思います。

#### 4 閉会

○村上副委員長

今、コミュニティ・スクールの学校運営協議会と地域学校協働本部との一体的な活動推進を国が求めています。自分が所属してる精華中学校コミュニティ・スクールは5年度はシニアスクールを実施予定で、3月号の広報でご案内します。地域で

支える学校ができたらと思っています。また、今日は本当に皆さんからよい意見が出て、この会議において指導の重点の文言が変わることは今までになかった経験でした。すばらしい意見が出て、それが皆さんの共通理解を得て改善されたという点は、この社会教育委員会議の大きな成果です。世代を越えた社会教育委員会議であったと思っています。

今年度1年間ありがとうございました。令和5年度もどうぞよろしくお願い致します。

○田原生涯学習課長

皆様には令和4年度もお世話になりました。引き続きまして、令和5年度もまたよろしくお願いいたします。これをもちまして社会教育委員会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。